

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターいるか まくらぎき		
○保護者評価実施期間	R7年1月9日 ~ R7年1月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	R7年1月9日 ~ R7年1月20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年1月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムの立案を職員間で意見を出し合いながら活動に取り組んでいること。	活動が固定化しないように振り返りを行っている。 また、前回の活動を生かしてステップアップを図り活動決めを行っている。	同じ内容の活動ではマンネリ化するので、活動が発展して次に生かせることができるかということも踏まえて、活動の充実化を図っている。 また、児童にもしてみたい活動を聞いて取り組むことで活動に対する意欲性も見られる。
2	家族等からの子育ての悩みや相談については、迅速に対応、面談等を行っている。	保護者様の悩みや相談をたくさん聞くこと。 訴えかけたい思いや悩みを保護者様の口から聞くことで、少しでも不安を軽減できるよう取り組んでいる。	相談や悩みがある際には、状況に応じて面談等を設ける等、保護者様や利用者様が困っていることを軽減できるよう迅速に対応している。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援の見学は来られるが、利用に繋がらない現状にある。	事業所の魅力を満身に伝えられていないことが要因と考える。	見学者に対して魅力を伝える際の工夫(パンフレット等の活用)や保育園、幼稚園、地域の保健師などの関係機関との連携を密に図っていく。
2			
3			